



想定外を想定する



庄内町長 富樫 透

午前3時50分に、携帯電話が鳴り何事かと思いき飛び起きました。電話は庄内総合支庁の担当部長からで、「昨日からの豪雨で、京田川が警戒水位を超えましたので連絡させていただきました。今はまだもう降っていないので大丈夫だと思えますが、云々」。寺田寅彦さんの残した名言の一つに「天災は忘れた頃にやってくる」とフレーズがあります。今年7月から3回目の電話で毎月の定期連絡のようになっていきます。

県内では、8月3日の豪雨災害で置賜地方を中心に激甚災害に指定されるほどの被害となりましたが、本町でも平成20年には線状降水帯の停滞により一日で318mmを記録する大雨がありました。東日本大震災は1000年に一度の災害といわれましたが、近年の異常気象や頻発する災害はいつ何が起こってもおかしくない状態と言えます。

「災害や有事の際の備えは日頃から」の気持ちを持って、持ち出し用の防災袋や食糧、災害時の備蓄、避難の際の行動計画などもしっかり家族内で話し合っておくことが大切とされています。また、ハザードマップなどの正しい理解や命を守るための非常時の判断力なども求められます。それぞれの自治会の自主防災活動やまちづくりセンターとの連携、「自助」、「共助」、「公助」の役割を理解しながら減災、防災の輪を広げていきたいと思えます。

実りの秋、自然は大きな恵みも与えてくれますが、時として災害をもたらすこともあります。自然を侮らぬ、怖がり過ぎず想定外も想定して、自然との共生を図っていきましょう。